

1 単元名

「学習発表会」のポスターをつくろう

2 単元目標

- 横書きの書き方へ関心を持ち、読みやすく書こうとしている。（関心・意欲・態度）
- 文字の大きさや余白のとり方に気をつけたり、筆記用具の工夫をしたりすることができる。（思考・判断）
- 文字の大きさや余白の取り方、筆記用具の特徴について理解し、整えて書くことができる。（知識・理解・技能）
- 書写で学習した内容を学習活動に生かしていく意欲を持ち、丁寧に書くことができる。（書写の日常化）

3 指導上の立場

（1）単元について

本単元は『横書きのポスター』を題材に、横書きの書き方について理解し、技能を高めていくことをねらいとしている。ポスターの内容を見やすくするためには、強調したいことを大きめに書く、余白をとる、同じ項目は書き始めの位置や大きさをそろえて書くなど、用紙に対する文字の大きさや配列を考えることが大切である。また、文字の太さをかえたり書体に変化を持たせたりするために、筆記用具を工夫することで、読み手に分かりやすく効果的に伝えることもできる。

横書きは、児童の日常生活や学習活動の中で多くを占める書き方であるため、この単元で学んだことをすぐに日常の場面で活用できるようにしていきたい。また、紙面の構成や文字の大きさを考えて書くことを理解し、2週間後にせまった学校行事「学習発表会」のポスター作りに生かしていきたい。

（2）児童の実態

本学級の児童（19名）は、書写の時間に集中して取り組むことのできる児童もいるが、なかなかできない児童もいる。また、硬筆では形の整った字を書くことができる児童が多いが、日常のノート等では、縦書き・横書きにかかわらず文字がマスからはみだしたり、字形が整わなかったりする児童もいる。また、マスよりかなり小さい字を書く児童も数名いる。

ポスターや新聞作りでは、文字の大きさをどうするか、配列をどうするかなどを漠然としかイメージできず、うまく表現することが出来ない児童がいる。本単元でポスターの書き方を学ぶことにより、日常の場面で活用できるようにしていきたい。

また、日常では「正しい姿勢をする」「常に丁寧に書くことができる」など、基本的な規律に課題が見られる児童があるので、書写の学習時間だけでなく、日常においても丁寧に書いたり、姿勢等に気をつけたりしなければならないということを引き続き指導していきたい。

（3）研究テーマとの関連

本校の研究主題である『基礎・基本をふまえて、生き生きと学ぶ子どもの育成ー自己の伸びを実感でき、生活に生かす書写学習ー』に迫るため次のような学習の工夫をしていきたい。

○主体的に学び、日常化の図れる工夫

- ・学校行事「学習発表会」と合科的な内容にする。
- ・ポスターを書くときのポイントを確認することによって、個人のめあてを持ちやすくする。

○基礎・基本を身につけさせる工夫

- ・見本となるポスターを前に示し、気をつける点をみんなで確認する。
- ・余白を視覚的に分かるように教具の工夫をする。

○自己の伸びを実感させる評価の工夫

- ・試し書きと下書きを比べて自己評価を行い、良くなった点に気づけるようにする。自己評価ののち、ペアグループで下書きの相互評価をすることで、自己の伸びを実感できるようにする。

4 指導計画（全4時間）

第1時 「学習発表会」のポスターに書く内容を考え、試し書きをする。

第2時 「委員会だより」を参考にしながら、ポスターの基本的な書き方やポイントを理解する。

第3時 横書きの効果的な書き方を確認し、下書きをする。（本時）

第4時 筆記用具を工夫し、下書きを仕上げてポスターの清書をする。

5 本時案（第3時）

目標	読み手にわかりやすく効果的に伝えるための書き方を理解し、筆記用具を工夫して書くことができる。	
学習活動	教師の指導・支援	学習評価
1 前時の学習を想起する。	○ 5年生が学習発表会で発表する内容などを、他学年の児童に伝えるためのポスターを作成することを確認する。 ○ 「委員会だより」のポスターを掲示し、読み手にわかりやすく効果的に伝えるためにはどんな点に気をつければよいか、ポイントを確認する。 <ポイント> 1) 読む人はだれか。 2) タイトルや強調したいことは、大きく書く。 3) 工夫する点 ・ 字間や配列に気をつけて書く。 ・ 余白に気をつけて書く。 ・ 同じ項目は、書き始めの位置や文字の大きさをそろえて書く。 ・ 枠で囲む。 ・ 下線を引く。 ・ フェルトペン・筆ペンなど筆記用具を使い分ける。	○ 前時に学習したポイントについて想起し、理解できたか。 (思・判)
2 本時のめあてを確認する。	文字の大きさや余白を考え、配列を整えて「学習発表会」のポスターを作ろう。 ○ 手元にある「学習発表会」の試し書きに、気をつけるポイントを赤ペンで印をつけさせる。 <予想される児童の修正ポイント> ・ タイトルの文字が小さく細い ・ 文字が小さい ・ 字がまがっている ・ 余白をとれていない ○ 個人のめあてをポイントの中からつかませる。 ○ 正しい姿勢や、鉛筆の持ち方が出来るように全体で確認する。	
3 下書きをする。	○ 上下左右の余白をわかりやすくするために、枠を用意しておき、それを用紙の上に置くことで、上下左右の余白を意識しやすくさせる。 ○ 文字を書く場所に罫線を引かせたり、印をつけさせたりすることで文字を書きやすくする。 ○ 正しい姿勢や、鉛筆の持ち方が出来るよう、机間指導する。 ○ ポイントに気をつけて書けている児童をしっかり称揚し、他の児童も意欲的に取り組めるようにする。	○ 用紙全体に対する文字の大きさや余白のとり方を理解しているか。 (知・技)
4 まとめをする。	○ 赤ペンで印をつけた試し書きと下書きをくらべて、自己評価をする。 ○ ペアグループで下書きの相互評価をする。 ○ 次時は、下書きを仕上げて、筆記用具を工夫して清書することを伝える。	

共通のめあて

指導のポイントなど